書評・Book Review

魚類学雑誌
51(1): 68

サメのおちんちんはふたつSharks are amazing animals—ふしぎなサメの世界. ——仲谷一宏. 2003. 築地書館, 東京. 231 pp. ISBN4-8067-1270-1, 1,900円（税別）.

大学の研究紹介のための講演会に参加したときのことである. 第2番目の演者である仲谷さんの講演が始まる頃になると, たくさんの若い女性が退室するのを見た. 理由はこのタイトルにあることは明らかである. 一見, 品がないと思われがちなこのタイトルに著者がこだわったのは, 子供たちが感じた素朴な疑問からであり, それがサメに強い関心を抱かせる発端になったからに他ならない. だからこのタイトルは彼の研究の原点と捕らえたらよいのかも知れない.

第1章は「サメってどんな生き物？」で, この章はまちがえやすいサメ知識, サメ学, サメの名前の3セクションからなる. 第1セクションはサメの定義である. サメは哺乳類でないことから始まり, 同じ軟骨魚類であるエイ類との区別点, サメと言う名前を持っている偽のサメ類に至るまで素人向きに解説している. 第2セクションではサメの進化からサメの分類と特徴を簡単に説明している. 第3セクションでは, 和名の語源の謎を解き, それらを分類している. 勿論, 頬白, 面長などその種の特徴や日本, 天竺など産地を示すものが多いが, 菊, 紅葉などの植物, 猫, ネズミなどの哺乳類, ヤモリ, カエルなど爬虫・両生類など他の生物名から由来したものが意外に多いのには驚かされる. その他にサメ類の英名と和名の違いが述べられ直訳するととんでもない間違いをすることが面白く語られている. ネコがトラになり, トラがイタチになるなど, 日本人と英米人の感覚の違いがわかり面白い.

第2章は「サメの生態」である. この本にしては非常に堅く, 不釣り合いな名称である. この章は5セクションからなり, この本のタイトルにもなったおちんちんを含み, 顎, 歯, 鱗, ロレンチーニびんの5器官を取り上げている. いずれもサメ類で特殊に進化したもので, それがどのような機能をもち, どのような行動と結びついているのかを解説している. 例えばおちんちんは対鰭から由来したので2本あり, 2つの必要性について仮説を立てている. 彼の説が正しいか証明できれば面白い. 顎は固定式顎から可動式顎へ進化し, かみつき力を増し, 摂餌能力が高くなる. 歯は人間ではエレベータ方式で, サメでは使い捨てで, エスカレーター方式で補充されるとした例えは素人にも理解し易く面白い. サメに見られる歯の多様性は食物と結びついて進化し, 食事マナーまで分かる. サメの鱗は水の抵抗を減らし, スピードアップにつながることをヒントにオリンピックのスイマーの水着が生まれた話は信じがたいが面白い. サメの第6感としてのロレンチーニびんは磁場を感じることが出来, これで生物電流を発している獲物を探す. 映画「ジョーズ」でサメを電線に噛みつかせて退治したシーンを思い出す.

第3章は「サメの攻撃」である. この章は4セクションからなる. 第1セクションのシャークアタックでは事故が増えたのは人とサメ, どちらの増加によるのか…の話は楽しい. 世界のシャークアタックでは, サメ被害の国別の記録とサメの種類, 悪者No.4が分かる. 日本のシャークアタックでは日本での記録が出ている. その中で, 愛媛の2事例は著者が犯人の特定に関与したので迫力がある. その他, この章ではサメから身を守る方法をサメの特殊な能力と習性に基づいて提言しているので, 海で仕事する人やマリンスポーツを楽しむ人には必読である.

第4章は「とっておきのサメの話」である. いずれも著者が研究したり, あるいは研究中の面白い6種のサメの話が登場する. 20世紀後半に発見された新科, 新属, 新種のメガマウスザメ, 特殊な摂餌習性を持つオナガザメ, 最も凶暴だが子育てが上手いホホジロザメ, 奇妙な頭を持つシュモクザメの棺木の効用, 分類が未解決な多数のヘラザメ類, 穴掘りの名人ダルマザメの話は退屈させることはない.

最後に, サメの見られる水族館とそこで飼育されているサメの種類が付録として掲載されている. もうすでに閉鎖された水族館, いなくなった種類もあるが, サメを観察しようとする人には便利である.

サメに関する本はいくつか出ているが, サメの生態や習性について一般的に書かれたものが多い. 本書は著者や彼の研究室が進めてきている, サメの形態と機能面からサメの分類・進化, 習性を理解しようとすることを中心に書かれている点で特色がある. イラストや写真をたくさん使い, サメに関心のある一般の人を対象にわかりやすく書かれているが, 水産学や生物学関係者, 魚類の専門家も結構楽しむことが出来る.

（尼岡邦夫 Kunio Amaoka: 〒041-1103 北海道亀田郡七飯町藤城353-35 e-mail: amaoka@crest.ocn.ne.jp）